

広がる抄織糸

高い吸湿性や
通気性が魅力



抄織糸を使った製品提案 (アイソトープ)

日本独自の素材としてアピール

和紙が原料の抄織糸(ペーパーヤーン)の打ち出しが強まっている。吸湿性や通気性など機能性が高く、価格を抑えた素材

も登場した。「天然繊維が出尽くした中で、新しい素材が求められている」(カスガアパレル)ことが背景にある。中国や

韓国の製品との差別化もますます求められ、機能や付加価値など「何かプラスしなければ、もう一着製品を購入する動機には

つながらない」(アイソトープ)ことから、日本独自の素材としてアピールする。

6、7日に開催された展示会ジャパン・ベストニット・セレクトションでは、抄織糸を打ち出す企業が目立った。カットソーOEM(相手先ブランドによる生産)のカスガアパレル(大阪)は、マニラ麻が原料の抄織糸「癒紙乃糸」(いやしのいと)のカットソーを提案した。

リネンのようなドライな風合いで、軽く吸水性がある。繊維は空気を多く含み、保温性が高く、秋冬にも対応する。耐水性も高く、1.5倍幅に紙を裁断し擦ることで、30番手の繊維が製造可能になった。ポリエステル(同)の併糸の組み合わせや、綿のスラブ糸やポリウレタンを使ったベア天じくのカットソーなども出した。

ニットメーカーのアイソトープ(同)も抄織糸の拡大に取り組んでいる。ハイゲージニットにも対応可能な針葉樹原料の抄

織糸「森林和紙」を開発した。

軽量で独特のシャリ感があり、従来のよりも価格を抑えた。12年春夏向けに併調の糸も開発し、羽織り物などで提案する。

同社はパウダー状の梅炭をすき込んだ紙を繊維化した「梅炭和紙」も訴求しており、羽織り物からスカーフや靴下、帽子、スリッパなどに広げている。

カットソーメーカーの東洋合織(同)は12年春夏向けに、和紙の抄織糸を使った盛夏向けのプルオーバーなど15型の製品を打ち出した。専門店や百貨店向けを中心に販売を伸ばし、10年の抄織糸製品の販売は09年の3倍と好調だ。

春夏秋冬に対応できる多機能のほかにも、不安定な相場が続く綿花などに比べ、価格が安定していることも抄織糸の魅力。細番手の開発など技術革新も進んでいることから、「新たな天然素材として提案する」(カスガアパレル)動きは今後ますます強まりそうだ。